

科目名	教育・保育課程論（卒業必修：保育士必修：幼稚園教諭二種必修）				
授業形態	講義	学年	1		
開講時期	2022年度 後期	単位数	2		
担当教員	保木井 啓史、中澤 幸恵、土屋 とき子				
内容および計画	<p>本科目は、幼稚園（認定こども園）の教育（保育）がどのような道筋をたどって進められるかを、保育所の状況も踏まえて、全体的な計画を示す教育課程と、それを具体化した指導計画について、具体例を示しながら講義を行い、各自指導計画の作成を行う。具体的には、先ずカリキュラム編成における保育者の選択と課題について検討し、次に日本と諸外国の幼児教育（保育）カリキュラムの思想と歴史を学ぶ。次に、実際の幼稚園（認定こども園）と保育所におけるカリキュラム編成、教育課程作成のための子どもの理解・観察の方法、子どもの発達課程に応じた教育課程の内容を確認し、実際の指導計画の編成と事例を検討した上で指導計画を作成する。最後に、幼児教育（保育）におけるカリキュラム評価とその方法や教育課程（保育課程）編成における協力と連携を確認し、今後の幼児教育（保育）とカリキュラム編成の課題を検討する。</p>				
1	カリキュラム（教育課程）とは何で、保育になぜ必要か（担当：保木井啓史）				
2	保育カリキュラムの公的な枠組み（担当：保木井啓史）				
3	保育活動の計画性と即興性（担当：保木井啓史）				
4	要領・指針（保育カリキュラムの公的な枠組み）の変遷（担当：保木井啓史）				
5	保育における「評価」（担当：保木井啓史）				
6	行事の指導（担当：保木井啓史）				
7	接続期のカリキュラム（担当：保木井啓史）				
8	幼稚園における長期指導計画と短期指導計画の編成と事例（担当：鈴木美智子）				
9	幼稚園におけるカリキュラム編成と評価とその方法（担当：鈴木美智子）				
10	こども園における長期指導計画と短期指導計画の編成と事例（担当：中澤幸恵）				
11	こども園におけるカリキュラム編成と評価とその方法（担当：中澤幸恵）				
12	保育所における長期指導計画と短期指導計画の編成と事例（担当：山浦三千代）				
13	保育所におけるカリキュラム編成と評価とその方法（担当：山浦三千代）				
14	特別な配慮を必要とする幼児への指導（担当：古川陽子）				
15	第1回～第7回のまとめ（担当：保木井啓史）				
教科書					
	タイトル	著者名	出版社	ISBN	発行年
	『子どもの心によりそう保育・教育課程論 改訂版』	佐藤哲也編	福村出版		2018
	『保育所保育指針解説』	厚生労働省	フレーベル館		2018
	『幼稚園教育要領解説』	文部科学省	フレーベル館		2018
すでに所持している場合、同じものを再度購入する必要はない。					
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・『幼稚園教育要領<平成29年告示>』文部科学省 ・『保育所保育指針<平成29年告示>』厚生労働省 ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領<平成29年告示>』内閣府・文部科学省・厚生労働省 ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成30年3月』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館 				
成績評価					
	評価方法				割合(%)
	講義中の課題実施及び提出状況とその内容				60
	期末課題の提出状況、内容				40

学習到達目標	幼稚園（認定こども園）における教育課程を理解し、保育所の状況も踏まえて、それを具体化した指導計画を自分で作成できるようになる。授業の到達目標は、先ず幼稚園教育要領の改訂の変遷と内容の変化を理解し、教育課程の全体像を掴む。その際、保育所保育指針と幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂・改定の状況も参考にする。次に、教育課程の全体像の把握を基に、教育課程の編制を理解し、具体的な幼稚園（認定こども園）や保育所におけるカリキュラム編成を学び、実際の指導計画の編成と事例を検討した上で指導計画を作成することができるようになる。
先修条件	
実務経験	
その他	